

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和2(2020)年
1月号
通巻593号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和2年1月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)45-1192
★印刷 大倭印刷 監修
★定価 1部 300円
年間購読料3,500円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamoto.jp>



大倭神宮の磐座

平成6(1994)年の大倭五十年八月十五日刊『大倭神宮伝承の紀』掲載のため、平成6年7月13日(水)あけぼの撮影
(「この写真を粗末にはしてはいけない」と、法主様が特に言われていたことを付け加えておきます)

大倭教の源流にさかのぼって

じんずうりきによせ 「神通力如是」の真意をさぐる 第五回

あさみどり
雲の八重垣わけ出でて
われ世に生ずるそのときは
八百萬代の神たちが
集い来たりて大倭
天の沼矛の立つときぞ

この写真は、壹百七拾貳萬年の太古から今に至る、大倭神宮・登美(長曾根)の神地に鎮まり給う八百萬代の、我が日本民族歴代祖神達(人格霊)の神集う実相である。

靈魂の实体は光である。その光には霊波長があり、色彩があり、音声があり、生前の意思や姿もあるが、カメラはその光だけを捉えるもので、フィルムに映る霊体は、その出現時の情況や時の人間関係によって不定の色や形状にて感光する。

大倭登美の神威顯揚は太古から鶴首待望の神慮であり、神慮にこたえ奉る時機到来を察知し、大倭五十年記念の聖業として「今」の世に鋭意顯彰することにしたのである。

平成六年七月十三日、『大倭神宮伝承の紀』出版(注・写真を除いて野草社刊『ながそねの息吹』所収)にあたり担当の数人、午前四時三十分あけぼのの神宮に集結し厳肅な祈りを捧げ、薄暗い神宮の磐座を先ず撮影に取り掛かる。シャッターを切った瞬間、神集いの霊界をカメラが捉えたのである。この映像は井手泉の撮影によるものである。

平成六年八月十五日 日聖 記

第五回はいよいよ奇稻田姫命の登場です。原文の紹介も少し長くなります。今回は三人の会の各自の解釈も並記することにしました。

原文

十一月八日、午前八時、於鳥見庄山

「ナム、ミヤウホウレンゲキヤウー、
、」(題目中ばに)

「オーヤーマーデーアキーツシ
マーネーヤーコートーホーギーターキー
ミーノーヨーハーイーハートーコーシ
エーニーイーヤーサーカーエーマサン
ヒノーモートーノースーメーラーミー
ヤーヤハートーコーシーエーニー、メ
データーヤナー、メデタヤナー」題目
、、。

「オーヤーマーデーアキーツシ
ラーオーヤーシューマークニーツーカ
ミーノーイーマースーチーアリガタ
ヤー、ウレシヤナー」(流調な歌
節にて唱ふ)

「ヤマトヒメ、オンマエケガシ奉ル、
何トゾオ許シアレ(合掌、二拝) 題目、
、、。

「キーミーガーヨーハーチーヨーニー
ヤーチーヨーニーコートーホーギー
ター、アーマーツーカーグーラーン
ウーシー申ーサーン」題目、、神

「楽手舞、、。

「ナガナガノオメザハリ、オイトマチ
ヨザイ仕ル」

「手舞終つてから合掌、両手をつき挨拶、
拍手しばし、一拝して退く。」

同日、午後十時、於鳥見庄山

「手舞の後二拝、両手をつきながら、

「今シバシ、オンマエケガシタテマツ
ル」手舞を始む。

「キーミーガーヨーハー、チーヨーニー
ヤーチーヨーニーコートーホーギーター
イークーチーヨーマーデーモユーワー
イーマーツール」両手をつき禮、「ツ
タナキ、ワザ、オ許シアレ、オイトマ仕
ル」

十一月九日、午前八時半、於鳥見庄山

「神楽手舞の後、三拝。」

「倭姫、イマシバシ、オン前ケガシ奉
ル」「アーアアーア」

「オーヤーシューマーシューメーラー
ミーオーヤーノーオンヨーハー
イー、イークーチーヨーマーデーモ
コートーホーギーマーツール」

「御神楽、奏シ奉ラン、今シバシオン

前、オカリ申サン」

「ナム、ミヤウホウレンゲキヤウー、
、」神楽。

「アーアアー、アーメーデタヤナー
オウヤシマーアマーツシヒノモト
ヤサカエーイークーチーヨーマーデー
モースーメーミーマーノーオーリマスカ
ミノメデーヤーナー アーウレシ
イヤナー、奇稻田姫命オン喜ビ申サレ、
トモニ妙法トナヘラレ候」題目、、。
聲一段と高く、

「吾ハ、大倭鷄杜ニ坐ス、奇稻田姫ナ
リ。」

「久シキ間ノ吾ガ思ヒ、コノタビ妙
法ヲテル為、天津神神集ヒマシ、才題目
ノ七字ヲ唱ヘサセラレテ候。トモニトモ
ニ妙法唱ヘ候へ。天津日ノ本国ノタメ、
妙法トナヘアレ、スメミヤノ為、吾ガミ
コドモノ為、皇孫ノ為、妙法七字唱ヘア
レ。南無ミヤウホウレンゲキヤウ。アー
ウレシヤナー、嬉シヤナー、トモニ祝ヒ
神楽舞ヒ、倭姫オン前ニテ舞ヒ候へ」

「倭姫、ツツシミ、オウケ致スデアロ
ウ。皆々題目トナヘ候へ。拙キワザニテ
候シガ心ノママニ舞ヒ申サム。『ナムミ
ヤウホウレンゲキヤウ』ゼンザイ、善哉、
善哉、善哉、善哉、アー嬉シヤナー、アー
嬉シヤナー」題目、、、神楽手舞。

合掌、礼拝。 両手をつき(やまとひめ)、
 「オン前ケガシ奉り、ミ神楽マヒオサ
 メ候」
 合掌。(くしいなだひめ命)

「倭姫、ナガナガ御苦勞デアッタ、厚
 クオン禮申上ゲルゾヨ」
 頭を下げ、

「有難キオン言葉、オイトマチヨザイ
 仕リマス」拍手、、、。

附言

奇稲田姫命の御姿輪孺香に始めて現し
 玉ふ。にっこり笑ひ倭姫の舞をみそなは
 し玉へり、と。座に隆蔵、隆家(日聖)
 あり。この二人に奇稲田姫命、「ヨク今
 日マデ鶏杜ヲ守ツテクレタト」御禮申さ
 ると。

註釈

- ①皇祖(スメラミオヤ) 歴代スメラミコト(天皇)の元初祖霊。すなわち奇稲田姫のこと。
- ②大八洲島 大八島国の略で日本国の異称。『古事記』では大倭豊秋津洲(本州)・伊予二名州(四国)・筑紫(九州)・淡路・吉岐・対馬・隠岐・佐渡の八州の総称となっている。
- ③国津神 國つ神、國之神の義。
 (一)天津神に対してこの國土に生まれてこの國を守護し給ふ神。地祇。地神。『神詞式』大祓や『万葉集』巻五に出ている。(二)天孫降臨以前よりこの國土に土着して一地方を領有せる神。『大辭典』平凡社)

④天津神楽 天津は天上界のものを尊み、称えて冠する語。天にあるとか、高天原やその神子の孫である天皇に関係あるものであるとかの意を表する。(『角川古語大辞典』)

ここに天津神楽として天津と冠しているのは靈動状態に入った妙月の靈界と繋がる神楽が、ここに至ってスムーズとなり、正に靈界での神楽そのものになったことを思わせる。

⑤皇孫(スメリマ) (一)天照大神の孫 ニニギノミコト。(二)子孫。(三)祭祀の時の天皇尊称。『広辞苑』、『福武古語辞典』とあるが大倭ではスメリマは国津神(元初日本『大倭』の神)の皇祖(スメラミオヤ)である奇稲田姫から連綿と続く子孫達のことである。奇稲田姫と外国より渡来されたスサノオ命の間にお生まれになったニギハヤヒ命が初代スメラミコト(天皇)である。

※

・皇祖(スメラミオヤ)……奇稲田姫。
 ・天皇(スメラミコト)……ニギハヤヒから始まる歴代天皇。

・皇孫(スメリマ)……奇稲田姫の子孫。
 ・大祖神(オオミオヤ)……万物一切生成化育の宇宙創成の気。

・我が日の本の大神……(日本)土着の奇稲田日女命と渡来人の建速須佐緒命及び二柱の御子の奇玉饒速日命の三柱を、我が日の本の大神神と崇敬し、後世、併せて「大倭大國魂大神」と称え奉っている。(『おおやまと』平成26年7月号『遺稿「大倭神宮伝承の紀後編」上』参照)

⑥聲一段ト高ク 妙月に懸かっていた倭姫が奇稲田姫に代わったことを思わせる。

⑦吾八大倭鶏杜ニ坐ス、奇稲田姫ナリ 「神通力

如是」の全体を通して奇稲田姫は終始主役を務めているが、ここで初めて名乗り出て登場している。

⑧久シキ間ノ吾ガ思ヒ 奇稲田姫の「久シキ間ノ吾ガ思ヒ」とは？ その真の答は私共には量りかねますが、参考として昭和40年7月23日月次祭法話(『おおやまと』令和元年7月号掲載)からの一文と「三人の会」の三人三様の思いを「註釈」の後に載せてみました。是非読者の皆様にもご考慮さればと思います。

⑨コノタビ妙法タテル為、天津神集ヒマシ
 ・「妙法」というのは『おおやまと』令和元年5月号6頁の註釈⑬にあるように、「大倭太加天腹(大倭靈團)の緻密な計画」のことであり、さらにこの計画の原点は大祖神太加天腹大神(加美・宇宙創成の気)の神意のことである。

・「天津神」とは靈界におられる神、つまり靈界の高位の靈人達のことである。「神通力如是」の始まる前月、神有月(10月)に大倭鶏杜に集まれた。

⑩善哉(ゼンザイ) 善いと感じてほめ、または喜び祝う語。(『広辞苑』)
 宜(うべ)なり、よきかな。美によい。素晴らしい。みごとだ。そのとおりだ。(『広説佛教語大辞典』)

⑪(附言) 妙月の前に奇稲田姫が現れて、倭姫の舞う姿をニッコリ笑ってご覧になっておられたと、神懸かりがおさまってから妙月が法主に語られた。

⑫(附言) ここで奇稲田姫は法主とその父である矢追隆蔵のお二人に大倭神宮を守ってこれた御苦勞の数々をねぎらっておられます。その内容は次回3月号『神通力如是』の真意

をさぐる』第6回において詳しく取り上げたい
と思います。

令和2年4月15日、時はまさに矢追家がお祭り
する大倭神宮の新しき出発から数えて100周
年の記念すべき日を迎えます。

三人の会・各自の思い

〔岸田 哲〕▼奇稲田姫の「久シキ間ノ吾ガ思ヒ」
というお言葉を想像の翼を少し広げて考えてみる
と、法主が「大倭神宮伝承の紀 後編」(『とおや
まと』平成26年7月号・8月号)で書かれた内容
と重なってくる。この記事の中で法主は奇稲田姫
と建速須佐緒命との出会いや、二人の間に奇玉饒
速日命が降誕した話を記されている。

そして、この饒速日命を大倭初代の「スメラミ
コト」(大王即ち統治者)として皇統が受け継が
れてきたが、残念なことに太古大倭歴代の伝承が
空白であることを述べている。法主は古代の「ス
メラミコト」についてこう書いている。

《…(前略) …永年にわたるその時代時代を背
負い受け継いできた「スメラミコト」は、顕界
(現界)・幽界(靈界)に通じている「超靈格者」
でなければならなかった。依って、太古社会にあ
っては、大王の選任は実に厳肅そのものであった。
王位継承の儀には、王宮に仕えていた各種の靈能
者や神懸かりの巫女達を集めて、神議(かみかた)を執り行
い、サニワ(審神者)の言向けに対して、各人各
様の言霊を顕揚する。この時点でサニワはそれ等
の言霊を分類整理して大王を決定するのである。
故に、大王(スメラミコト)たる者は、顕界(現
界)・幽界(靈界)に通じている超靈格者である
から、自然に世の中は平和で、穏やかな国ができ
ていた。…(後略)…》

この太古大倭歴代のスメラミコトの祭祀の場
であった鶏の杜(大倭神宮)が後代の歴史の中で忘
れ去られているので、それを顕彰したいというこ
とも奇稲田姫の思いであろう。

さらに時代が下って、長曾根日子命が大倭のス
メラミコト(大王)であった時に、九州高千穂か
ら大軍をひきいてやってきた一団と戦火を交え、
やがて金鶏の登場によって和議を結び、高千穂勢
の狭野命が神武天皇として即位したというヤマト
国譲りや王位継承の真実も曲解されて伝えられて
いるということに対する嘆きも、奇稲田姫の「久
シキ間ノ吾ガ思ヒ」の中に含まれているように思
われる。

法主のこの記事の「結び」に書かれている次の
一文も、まさに奇稲田姫の嘆きそのものであるよ
うに感じられる。

《…これにより日本国代々の皇統は、万世一系
と讃えて、明治・大正・昭和へと続いてきたので
あるが、神武紀元の時の因縁果報の輪廻の血が歴
代天皇に潜在していることと、皇統も「スメラミ
コト」の使命自覚が薄くなっていたこととの両
方が相俟って、世は権力者が支配する国家社会へ
と転化の道を辿った。やがては皇統が最高の権力
者の地位に押し上げられ、終には人間放棄の神様
にまで昇進された。嘆かわしいことである。》

この「神通力如是」の神語りが行われた昭和16
年末は日米開戦の直前という危機的な状況の最中
であり、奇稲田姫は日本と世界の行く末を見据え
ながら真の妙法を立てていくために霊界からの働
きかけを強めていたように思われる。

(杉本順一)▼「吾ハ、大倭鶏杜ニ坐ス、奇稲田
姫ナリ、久シキ…(中略) …倭姫オン前ニテ舞ヒ
候へ」

(1) この一文節の私の意識

私は大倭神宮にいる奇稲田姫である。私の永い
間の願いであった妙法を人の世に知らせるため、
今回霊界で高位の靈人達が集まって、法華経の七
字である「南無妙法蓮華経」を唱えられました。
それは日本のためであり、霊界のおられる所、
つまり大倭神宮のためであり、私の子孫達のため、
代々のスメラミコト達のためです。

妙法を意味する七字の言霊(ことだま) ナムミ
ヨウホウレンゲキヨウを唱えなさい。私も唱えま
しょう。なんと嬉しいことでしょう、皆さんも共
にこの目出度い日に神楽を舞ってお祝いしましょ
う。倭姫よ、あなたも皆さんの前で舞いなさい。

(2) 各語の解釈

・妙法について…注釈⑨を参照。

・南無妙法蓮華経について…神通力如是第二回
目の註釈⑤参照。

・スメミヤノ為について…スメは皇(神または
天皇に関する物事の名に冠して用いる語(『広
辞苑』)、ミヤのミは靈界人のこと(法主法話)、
ヤは屋つまり宮、スメミヤは神宮つまりこここ
は大倭神宮となる。

・吾ガミコドモノ為について…奇稲田姫は日本
土着の人であり、この人に始まる子供達とは国
の子、国民のこと。

・久シキ間ノ吾ガ思ヒについて…時間や歴史の
なかで考えられるものではないのかと思う。そ
れは奇稲田姫命が出現されたのは、法主の母、
日妙によれば「今から172万年前」と法主が
話された。奇稲田姫の思いは、量りかねるとこ
ろです。

それでも私は奇稲田姫さんにお聞きしまし
た。

「ニギハヤヒノミコトノ ミオシエニシタガ

ウ ミクニノイデキタランコトヲ オモウモノ
ニテ イクマンネンノムカシカラ オネガイイ
タシシコトナリ(奇玉饒速日命の御教に從
う御国の出で来らんことを思うものにて、幾万
年のお昔からお願ひいたししことなり。杉本記
とおの言葉ですが、ここで新たな謎が出てきま
した。「饒速日命の御教」とは、どうい
うことなのでしょう。

そのヒントは大倭教聖歌「くにのもと」第二
節にあります。

「賑栄う日御子天降る 鳥見に生れます救世
主 日聖 ひのひじり…(後略)…」に出てい
る「賑栄う日御子」のところです。

私が入門して間もない頃、法主から紫陽花邑
のパンフレットを作ってくれと言われました。
意味も分らず聖歌の文字を写していた時でし
た。法主がいきなり、「賑栄日御子」というの
はな、ニギハヤヒのことやねん。「ニギハヤヒ」?
この言葉を聞いたのは生まれて初めてでした。
はあ、と返事はしましたが、頭はポカンでした。

改めて、聖歌「くにのもと」第二節をみると、
法主の御遺文や遺されている法話の一言一句が
奇稲田姫が言われた「ニギハヤヒノミコトノ
ミオシエ」だと納得した次第です。

(3) 杉本個人が思うこと
神通力如是では妙法、南無妙法蓮華經、七字、
題目、などが繰り返し出てきます。これらは日蓮
宗法華經の言葉です。私は佛教については門外漢
です。

生前法主に日蓮上人のお話をしていたいたこ
とがあり、その折法主は「佛教を勉強するなら、
壽量(じゆりやうりやう)品を読んだらいい」と言われたことがあり
ました。その頃はあまり佛教に興味がわかず、聞
いたままでした。

法主が帰幽されて2年ほど過ぎた頃、いつもの
様に拜殿で朝の挨拶をしていたら突然法主が「ジ
ュリョウホンヨヨメ」といわれたので驚いた。急
いで岩波書店の『仏典をよむ1〜4』(中村元善
を買って読んでみました。そこにある久遠の本佛、
つまり永遠の存在である釈迦如来を知った。今か
ら数年前この時も突然「ヒノヒジリワ コユウレ
イニ アラス」(日聖は固有靈にあらず)と聞こ
えてきました。

久遠実成の釈迦と法主が繋がった瞬間でした。
大倭教の聖歌「くにのもと」にある「ひのひじ
り」の意味もより深く考えるようになりました。

(林 修三) ▼太平洋戦争直前に起こった「神通
力如是」の顕現。その前月、神有月に高位の靈人
達によって行われた大倭神宮での神議り。その神
議りを通じてあらわされた奇稲田姫の「久シキ間
ノ吾ガ思ヒ」とは何だろう?

開戦後の日本は数多の悲惨な出来事と犠牲者を
生み、敗戦となった。

それに続く大倭教の立教。その証しとしての東
方の光と「レイメイハオトズレタリ トウホウノ
ヒカリ タイホウハタテリ オオヤマトカマノ
ハラ」の言霊の出現。この一連の流れから 奇稲
田姫の「久シキ間ノ吾ガ思ヒ」とは、この立てる
大法にあると思われる。そしてその大法とは「か
んながらの大法」のことであり、乱れた現界を万
古の昔にもどし、顕幽不二の kannagara の世を現
代にあらわすことにある。

kannagara の世は現界、靈界を循環して加美の
まにまに生きる世、影が形に添う様に影のない実
体はない。

頭には頭の、幽には幽の役割があり、二つで一
つ。大原神(宇宙神靈)の存在を見、その中で学ぶ

人間性(魂)の向上を進めていくメービウスの帯。
限りあるものと限りなきものの交感。この壮大
な宇宙観を基にした顕幽にわたる平和境を現世に
築くことこそ姫の思いであり、宇宙神靈の願ひで
あると考える。

昭和40年7月23日月次祭法話「より

「とおやまと」令和元年7月号掲載)

神ながらの「道」と「法」

生活の中で朝起きて糞したくなってきたら、も
う自然に便所へ走って行きますね。これが流れに
逆らわない、いわゆる神ながらの「道」というい
き方なんです。肉体に直接感じている問題は、素
直に順応しているんですね。だから神ながらの道
というのは、創られるんじやなしに自然発生であ
って、だいたい人間を中心としての教えなんです。
それに対して、宇宙の出来た時から流れている、
絶対犯すことの出来ない流れというものがありま
す。これが神ながら「法」のほうです。私は出来
るだけこの神ながらの法というものを実践したい
と思っているし、今日までしてきたつもりです。

それで現在、一応、大倭教という宗教の形にお
いては神ながらの法と、『大倭新聞』にでも私は
「法」という言葉をよく使っています。しかし、
これは人間がこの世の中に生まれてくる以前、ま
だ月や太陽とか地球とかそんな物もこの宇宙の中
にはつきり出来ていない、深い昔からある一つの
法則なんです。

その宇宙の神ながらのいろんな仕組みから、人
類というものが地球の上に湧いて来たんです。そ
して地球上に集団で生存して社会生活をしており
ます。神ながらの法に逆らっては人間と人間の生
活がうまくいかないから、幸せにはなれません。

そこで、昔からある宇宙の神ながらの大法を悟って、まずその味を掴んでもらって、自分達の生活の中に生かしていく。それを我々の人間社会に実践遂行していくところに、神ながらの道というものがあるわけなんですね。

太加天腹大神とは

人間を対象に言いますと神ながらの道ということになるんですが、私のように霊界と現界にまたがっている立場の人間であれば、神ながらの法に重点を置くようになってくるんです。

日本の我々から見た神ながらの大法というものを、釈尊もお説きになっていらっしゃるんですよ。「我仏を得てより来経たる所の諸の劫数無量百千万億載阿僧祇なり」と『法華経』寿量品の自我偈の最初に書いてあります。

まあ一劫ということ自体、ものすごい年代の長さを言っているんです。その劫数が「百千万億載阿僧祇」だということですから、測ることも出来ない「無量」の長さであるということです。そのように釈尊の場合においても宇宙の根源にさかのぼっているんです。仏教じゃなくて「法」のほうですね。仏法は「無始無終」、始め無し、終わり無しで、計り知ることが出来ないこととらえています。

日本の『古事記』なんかだと、宇宙創成の時、天之御中主大神などの造化三神がこの世の中に出て来たんですけれども、隠れ身であって姿がなく、ひとり成りませる神であると説明しているんですね。だれか神さんがおって、そんなものをこしらえたんじゃないし自然に発生してきたというんです。その自然発生した力、エネルギーに天之御中主大神とかいう人格神の名前をつけているんです。

その宇宙創成までさかのぼる根本のエネルギーを大倭では太加天腹大神と言っておるんですが、釈尊が仏法と言う場合も同じことなんです。

令和元年大倭会文化講演会報告

鵜沼先生に感謝

三重県名張市 服部 洋平

令和元年十一月十七日、大倭会文化講演会が、大倭拝殿にて行われました。今年の講師は、中国伝統医学・氣功の第一人者、中醫師で鍼灸師の鵜沼宏樹先生。大変素晴らしいお話でした。資料を用意して下さり、それを見ながら項目別に話をし下さったので内容的にも、とても分かりやすいものでした。



鵜沼先生は、高校を卒業後すぐ中国に留学しました。そこで林修三さんとの縁が結ばれ、今回の講演会につながったとのこと。一九八九年、中国で天安門事件が起こります。一度日本に帰国しましたが、卒業する為中国に戻り、中国北京中医学院(現在の北京中医药大学)を卒業されます。銃弾が飛び交う中で命がけの行動だったと思います。しかし鵜沼先生は笑顔で軽やかに、そのことを話されていました。求道心と肚のすわり方が本当に凄いいと思います。鵜沼先生の志、深い知識、確かな実績に、とても感銘いたしました。

この講演のタイトルは、「中国医学、統合医学と医療の世界を旅して」です。タイトル名も、とても秀逸だと思います。この名前をもとに鵜沼先

生のお話をひもといていきたいと思っています。中国医学は、専門家が行う治療法と患者自身が行う養生法の二つがワンセットになっています。中国医学の治療法は、中草薬(いわゆる漢方)、鍼灸(鍼と灸)、推拿(按摩等の手技療法)、正骨(骨折、骨格のゆがみの修復)です。

*

私は、かつて整体師をやっていたことがありますが、最初に学んだ技術が推拿療法です。学院長は、中国人の葉旋先生。日本国内での実績が評価され社会文化功労賞を受賞されています。私が在学中、陸上男子110mハードルの世界記録保持者のトレーナーにもなった方(中医学の専門家、中国人です)を特別講師として招き、特別授業をして下さったこともありました。

私は、まだ現場での経験がなかったので、葉先生や特別講師の先生の手技を見ても、「うまい」とは思っても、何が凄いのかは正直なところ、よく分かりませんでした。

卒業後、共に推拿療法を学んだ仲間が電話で次のような話をしてくれました。ある日、交通事故で首を痛め、葉先生を訪ね診てもらいました。ベッドに仰向けになり、葉先生が「痛みを感じたら言って下さい」と言われ、下から手を入れて背骨を上から順番に一つずつ押さえていきました。すると、かなりの痛みを感じるところがあり、手まで痺れたとのことでした。葉先生は「ここは○番です(脊椎の何番と言っていたかは忘れましたが)。首の牽引をすれば治ります。保険が効いて安いで、整形外科でやってもらって下さい。二ヶ月ぐらい(と言っていたと思います)通ったら治りますよ」と言われました。本当に二ヶ月ぐらいの通院で治り、「葉先生は本当に凄い」と言っていました。この話を聞いて、葉先生の凄さが私にも分か

りました(遅すぎましたが)。

葉先生は、もちろん気功も出来ず。「私が治す。気だけで治す」等の姿勢は全くありません。あらゆる選択肢を持っており、患者の為に最短距離を選択してくれれます。あっさり西洋医学の病院へ行くことを勧めてくれます。「保険が効いて安いから」と簡単に言います。鵜沼先生同様、これが本物なんだと思います。私は整体師として、葉先生の足元にも及ぶことが出来ませんでした(当たり前前の話ですが)。しかし今振り返ると、中国医学、推拿療法の凄さ、奥深さに触れることが出来たことは、とても幸せな経験だったと思います。

*

中国医学の養生法は、呼吸法、導引等を行うことです。養生法を行うことにより、生命力、自然治癒力を引き上げることが出来ます。「生命力、自然治癒力を引き上げる」とは、どういう状態なんでしょうか。これだけだと漠然としていて、よく分かりません。養生法をやることによって身体がどういう状態になれば良いのでしょうか。

鵜沼先生は、そのことを分かりやすく話して下さっています。それは、リラククスして筋肉が柔らかくなり血液の流れが良くなって、重心が下がって呼吸が深くなる状態になれば良いということですね。こうなると精神も安定し、心身の良い基盤が整い、これにより、その人にとって最善最適へ向かっての突破口が出来ます。

力を入れるのは簡単ですが、力を抜くのは難しいと思います。中国医学の養生法では、力を抜く方法が確立されており、「太極拳は下手でも効く」という鵜沼先生のお言葉は、私達に希望を与えてくれます。

*

統合医学とは、西洋医学による医療と代替医療

(伝統医学も含む)を合わせて患者を治療することです。伝統医学・代替医療の重要性は、これよりも高まっていると思います。しかし、現代医学的な診断に頼らなければ分からないこともあるようです。中国医学の先生で、治療技術は認めないが、診断は現代医学の方がはるかに上と言っている大御所の先生もいるぐらいです。

大倭に縁の深い甲野善紀先生が書かれた名著、『表の体育 裏の体育』という本がありますが、西洋医学と伝統医学・代替医療は、表の医学・裏の医学という見方出来るのではないのでしょうか。癌等の難治性の患者さんを「治るか・治らないか」という二分法ではなく、その人にとって最善最適な状態へ如何に導いていくか。それは、表の医学と裏の医学を如何に繋ぎ合わせるか(まさしく統合医学)ということになってくるのではないかと思います。

統合医学の中で癌の治療に非常にインパクトがあったものがあります。それは「サイモントンのイメーჯ療法」です。この話は、かなり衝撃的でした。これは、「サイモントンプログラム」と言い、放射線専門のドクターであったカール・サイモン先生が考案したものです。このイメーჯ療法をやると、抗がん剤のひどい副作用が全く出なかったり、腫瘍が縮小したり等、非常に良い効果が出たそうです。サイモントン先生は、放射線治療をやめて、イメーჯ療法を専門的にやるようになりました。NHKで特番が組まれたり、本も出して世界的なベストセラーにもなっています。鵜沼先生がお勧めになっていた帯津三敬病院にも毎年来られていました。

このイメーჯ療法は六種類あるそうですが、その中でも最も治療に貢献し、最も効果的で積極的に行っていたのが、死の瞑想です。これは『チベ

ット死者の書』を研究して考案されたものです。これから治そうという時に死をイメーჯする、死のリハーサルを行います。患者さんの中には、混乱して出ていってしまう人もいます。しかし、この死のリハーサルが一番効くようです。何故効くのか? サイモントン先生にも原因は分からないようです。

*

鵜沼先生は、「死のリハーサルをするのが一番効くというのは、氣功的には辻褄が合っています」と話して下さいました。それはどういうことかという、死のリハーサルをすることによって魂が肉体から抜けて宇宙と一体となって、宇宙の生命力と一体となったらパワーアップされます。肉体という小さい所にいた生命が枠を飛び越えて宇宙の壮大な生命力に遭ってリセットされて戻って来たら元気になるということです。これは、中国の天人合一の思想です。見事な分析だと思えます。中国の伝統の奥深さには驚かされるばかりです。

最近、精神科医ヴィクトール・エミール・フランクル著『夜と霧―ドイツ強制収容所の記録』という本を読みました。副題の通り、著者フランクルの体験記録です。地獄のような体験報告ですが重苦しさを感じさせない、独特の感動を与えてくれる名著です。フランクルの言葉に「人生から何を我々はまだ期待出来るかが問題なのではなくて、むしろ人生が何を我々から期待しているかが問題なのである」という言葉があります。この言葉は収容所とは関係なく多くの人々へのメッセージだと思うのですが、鵜沼先生の思想には人生が我々に期待している何かがあると思います。

鵜沼先生、林修三さん、大倭の皆様、本当にありがとうございました。

あじさい日誌

12月15日 大倭神宮月次祭。

12月22日 紫陽花邑内各所と大倭神宮に門松が飾られ、餅つきやお掃除等々と日聖祭準備。

12月23日 大倭七十六年。大倭元旦。午前10時から法主奥津城の参拝に始まり、拜殿で日聖祭が行われました。祭典後は4カ所の守護霊、成謙坊さん、成正坊さん、太郎坊・次郎坊さん、土師部の杜(野見宿禰さん)にご挨拶回り。平日でしたが例年と変わらぬくらい大勢の人でした。初来邑の方も十数名。午後は大倭会館で直芸演芸会が行われました。



アマミ舞 坂田洋美他2人



紙芝居 藤田啓子



マジック 且国容子



手品 春日作太郎



笛 喜多樹和人



オカリナ 奥川玲子



河内宮頭 浮音家社中、大倉弘さん他



浮音家社中、大倉弘さん他

12月27〜30日 交流の家でF I W Cの年末キャンプ。関西委員会からは少なく、他委員会を中心に37名の参加者だったとのこと。交流の家は「聖地」か？

12月29日 朝9時から大倭神宮の大掃除。古竹等、高橋良美さんらが整理しておいてくれたのですが、19名の参加者で午後2時半頃終了しました。

12月30日 午前9時から大倭会館とその周りで餅搗き神事が行われ、あいにくの雨でブルーシートを張る時はF I W Cの若者が助けてくれました。

12月31日 邑の男性達が拜殿のお供え物や大倭神宮の年始祭の準備をしました。

また年越しの祓い清めの太太鼓が、人手難のため、今年は山崎奈紀佐・将晴姉弟と青山法義さんにより12カ月分ということ

で12回打ち鳴らされました。

1月1日 大倭神宮年始祭。参拜の後、教長さんの挨拶、お酒で乾杯、大倭弥栄三唱、そして三本締めが行われました。

この日、安本雅一さん(大阪府住吉区)が帰幽。満97歳。4日のお通夜には邑からも何人か

がお参りしました。柴地則之

さんと大学の同級生でF I W Cの

キャンパーO B。そのユニークな存在感

は平成29年9月号「寸紗」をお読み下さい。

1月6日 午前11時から拜殿において大倭安宿苑・大倭印刷・大倭殖産・大本宮職員による事

始の会が開かれました。

午後2時から大倭神宮月次祭。

午後6時から大倭会館において恒例の紫陽花邑新年食事です。

大倭安宿苑では(菅原園)

12月9日 大和キリスト教会の方々による歌や人形劇。

12月21日 楽団演奏とお食事地域交流会が行われました。

12月26日 お餅つき。

12月19日 忘年会。一条高校コーラス部をお招きしました。

1月1日 おせち料理の昼食で新年のお祝い。

午後、初詣で大倭神宮の年始祭に参加しました。

法主帰幽祭のご案内

日時 令和2年2月6日(日曜日)

●午後1時40分より法主様奥津城においてご挨拶をいたします。

●午後2時より大本宮拜殿においてお参り後、平成2年12月23日の降誕祭の映像記録を見ていただき、その後教長さんのお言葉をいただきます。

現身はよし朽つるとも永久に 結ぶ心のかわるものは

宗教法人 大倭教

(長曾根寮) 12月19日(特養) 誕生日会で7名の方のお祝い。

12月24・26日(デイサービス) 手作りDVD上映、豪華ランチ、プレスレット作り、ケーキ作り

でクリスマスの雰囲気を楽しみました。

12月25日 サプライズ登場のサ

ンタクローズやトナカイ等々でフロア合同のクリスマス会。

1月9日 新年のお祝い。創作料理(懐石鍋料理)の昼食、午後からはカラオケ大会を実施。

(八重垣園) 1月1日 天気も良く清々しい元旦の朝食はお雑煮と三種盛り。昼食はおせち料理でした。

あんない

*玉緒祭(大本宮) 2月3日(月) 午後2時より大倭大本宮拜殿にて。

玉緒祭は宇宙根本神霊と人間の

本霊との結びを感じます。お祭り。玉は命を、緒はひもを言う。

*月次祭(大倭神宮) 2月6日(木) 午後2時より大倭神宮にて。

*法主帰幽祭 2月9日(日) 上欄参照。

*大倭会主催第613回祓会 2月9日(日) 日時が重なりますので帰幽祭にご参加下さい。

*月次祭(大倭神宮) 2月15日(土) 午後2時より大倭神宮にて。

*申孝祭と月次祭(大本宮) 2月23日(日) 午後1時20分より大倭神宮にて申孝祭が、2時より大倭大本宮拜殿にて月次祭が行われます。

申孝祭は、神武天皇が行った祭政一致の故事、鳥見山中の霊時を記念するお祭りです。